

1. 目的

団地住民により、団地内の放射線測定を行うことにより住環境の空間線量率を把握し、安全の確保とともに、安心感の醸成を図る。

2. 測定点（場所）の設定

過去 3 階実施した測定結果を踏まえ、

- (1) 団地内各棟の代表的地点を選定し、定点（案内板の下等）の放射線量率を測定する。
- (2) 団地内の代表的な地点を選定し、定点の測定を行う。
- (3) 敷地内の特異点（ホットスポット）の確認
- (4) 遊園地など子供の遊び場

などについて、測定点の高さ 0cm（地表）の線量率測定を行う。

（注記）東京電力福島第 1 発電所の事故ともない放出された放射性物質の中で、現在、各地に飛散し空間線量率の上昇に影響している核種は ^{134}Cs と ^{137}Cs であると考えられる。これ等の核種は、地上に降下し、粘土などと強固な結合をしていると考えられる。従って、測定は線量率の高いことが推定される地表面について行う。

3. 測定結果の概要

- (1) 団地内の空間線量率 殆どの場所で $0.08 \mu\text{Sv/h}$ 以下である。この場所での生活を行う場合、年間被ばく量は 1 mSv 以下であり、健康に影響を及ぼす恐れはないといえる。（事故以前の線量率に近いものと推定される。・・・聖ヶ丘地区について、過去に詳細な測定データがないと推察）
- (2) 遊園地等の線量率 団地内の他の場所と同等の線量率であり砂場等で遊ぶ場合においても問題となる線量率ではないといえる。
- (3) 過去 4 回の測定において、集会所など屋根からの雨水が樋を伝わり地面に直接排出される場所の線量率は高い傾向にあった。今回の測定においても同様の傾向が認められたが、集会所の雨水の排出設備の改良が行われたことからこの効果が顕著に現れ線量率の低減化が認められた。
- (4) 全体的に、前回（7月 15 日）の測定値と比較し、測定値の統計誤差等を考慮すると大きな変化はないといえる。
- (5) ひじり坂の道路より団地内への入口の雨水溝に設置されたグレーチングの下の堆積物の場所にホットスポット（グレーチング表面で $0.43 \mu\text{Sv/h}$ ）が従前と同様に確認された。

4. 結論

- (1) 聖ヶ丘 3 丁目団地の空間線量率は、平均として $0.08 \mu\text{Sv/h}$ 程度であり、健康の影響を及ぼす線量ではないといえる。
（参考）福島県内の放射性物質による深刻な汚染のある地域では、年間被ばく線量が 1 mSv 以下とすることを目的に除染が進められることとなっている。そのため、線量率を $0.23 \mu\text{Sv/h}$ 以下となることを目標として除染が行われることとなっている。（聖ヶ丘の線量率は $0.23 \mu\text{Sv/h}$ の約 $1/3$ である。）
- (2) 排水溝などに雨水とともに流れて蓄積した汚泥や枯葉の部分に放射性物質が蓄積していると推定されることからこれ等の流失などによる拡散を防止する目的から汚泥等の回収などについて対策を施すことが望まれる。

以上